

## (4) 南 関 東



南関東地域では、景気は足踏み状態となっている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(〃は上方に変更、〃は下方に変更)。

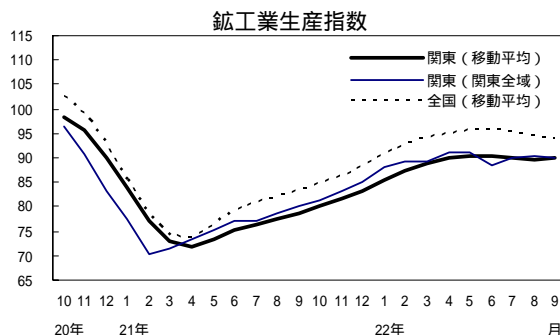
### 前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 22 年 8 月)	今回 (平成 22 年 11 月)	
景況判断	緩やかに持ち直している	足踏み状態	
鉱工業生産	緩やかに持ち直している	おおむね横ばい	
住宅建設	増加	大幅に増加	
雇用情勢	厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある	厳しい状況にあるものの、持ち直しの動き	

## 1. 生産及び企業動向

### (1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。(関東全域)

輸送機械は、エコカー補助金終了等の影響により、普通乗用車及び小型乗用車などで、減少している。化学は、ポリカーボネートやフェノールなどで、減少している。一般機械は、韓国やアジア新興国向けを中心にフラットパネル・ディスプレイ製造装置及び半導体製造装置などで、増加している。電気機械は、猛暑の影響により、セパレート型エアコンなどで、増加している。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。関東の最新月は速報値。  
2. 全国及び関東の大線は後方3か月移動平均。

### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

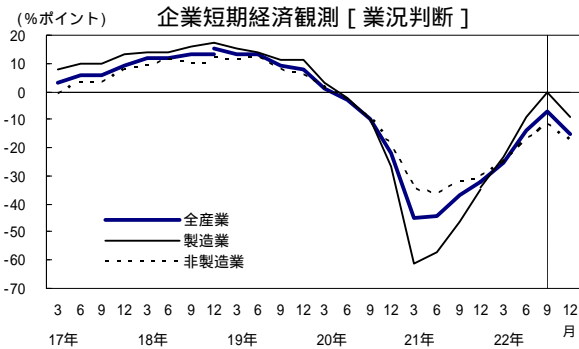
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
輸送機械	15.2	3.5	7.1	5.5	12.3
化学	13.4	1.2			
一般機械	13.2	16.0	5.7	4.2	5.1
電気機械	7.8	1.4	4.3	3.9	7.9
食品・たばこ	7.1	0.7			
鉱工業	100.0	1.6	0.2	0.2	4.5

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

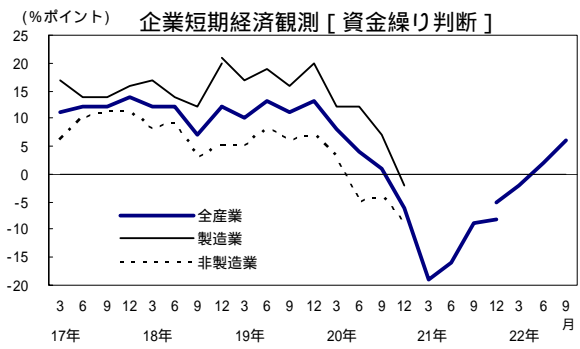
2. 7~9月期は速報値。化学、食品・たばこは、速報値では公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。

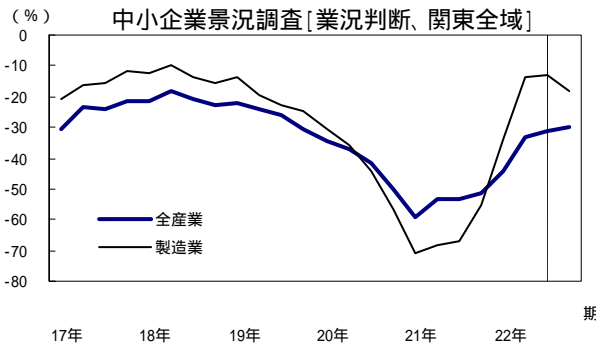
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。22年12月は予測。  
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。  
関東全域(新潟県を含む)。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。  
日本銀行横浜支店管内。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。22年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(9月)[企業動向関連(現状)]

「ここにきて受注にこぎつけている物件がいくつかあるが、とにかく安く、利益が出ない(建設業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

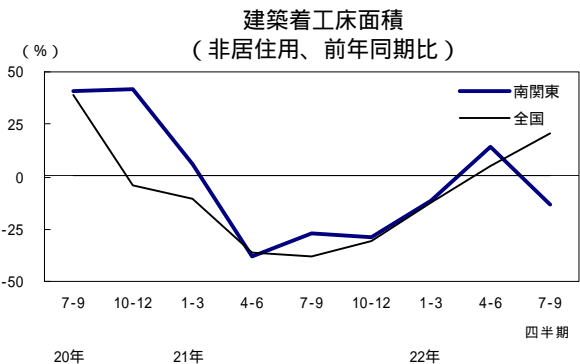
(3) 22年度の設備投資は前年度を下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	21年度実績	22年度計画
全産業	23.8	5.2(4.1)
製造業	25.1	5.2(2.3)
非製造業	20.7	5.1(8.6)

(備考)( )は前回(6月)調査比修正率。

調査対象は神奈川県。



(4) 南関東

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直している。

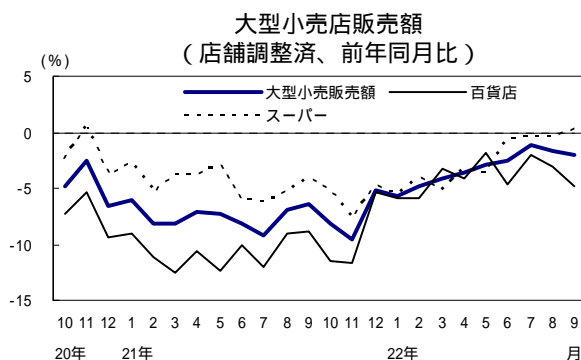
大型小売店販売額

百貨店は、7月は、クールビズ需要の高まりから、ワイシャツ等の紳士服が好調だったことから、前年比の減少幅が縮小した。8月は、猛暑により夏物衣料が好調だったものの、秋物衣料が低調だったことから、前年比の減少幅が拡大した。9月は、一部店舗による増床・全館改装があったものの、残暑により秋物衣料が低調だったことから、前年比の減少幅が引き続き拡大した。なお、日本百貨店協会によると、東京地区の10月の売上高は前年同月比2.7%増となっている。

スーパーは、衣料品で夏物衣料や猛暑による夏物食材の需要があったことや野菜の相場高から、前年同期比の減少幅は縮小した。

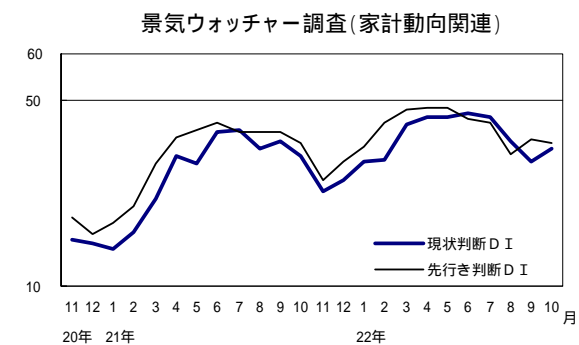
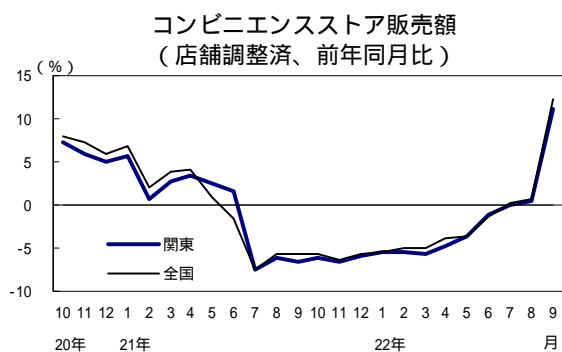
景気ウォッチャー調査(8月)[家計動向関連(現状)]

「猛暑の影響によりアイス等の盛夏商材の売行きが非常に良いが、特売時での購入比率が高いため、数量が伸びても金額が伸び切れていない(スーパー)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	21年10-12月	22年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	7.5	5.0	3.0	1.6
百貨店	9.2	4.9	3.6	3.2
スーパー	5.8	5.0	2.5	0.3
乗用車	16.1	24.4	19.3	2.3
景気ウォッチャー	33.8	39.6	46.8	41.6

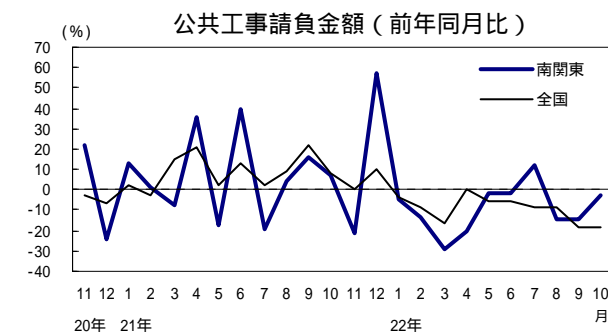
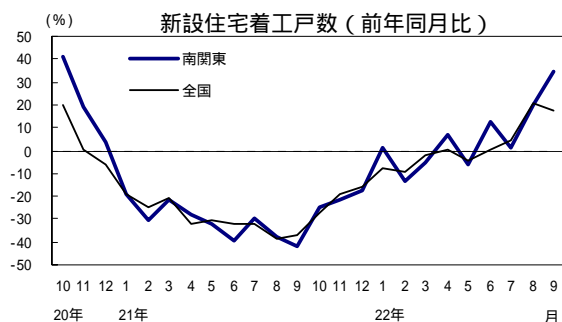
- (備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。22年7-9月期は速報値。  
 2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。  
 3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

分譲が前年を大幅に上回ったことから、全体でも大幅に増加している。

(3) 公共投資は22年度累計で見ると前年度を下回っている。

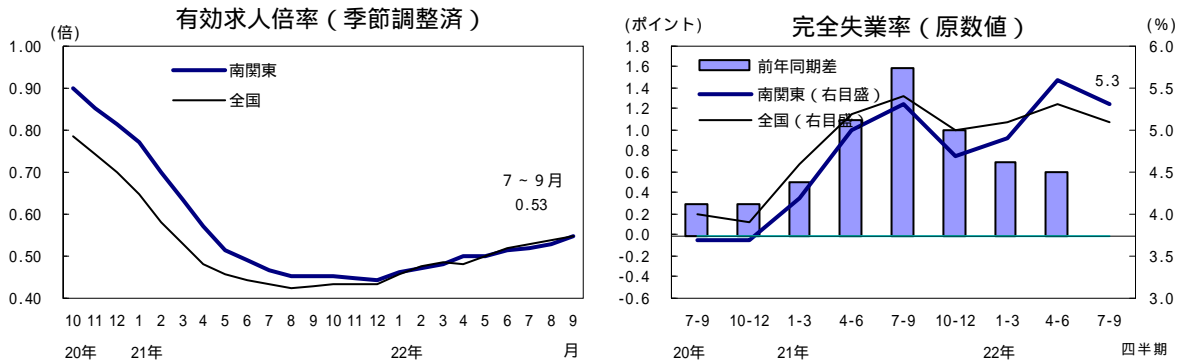


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期と同水準となっている。



景気ウォッチャー調査（9月）[雇用関連（現状）]

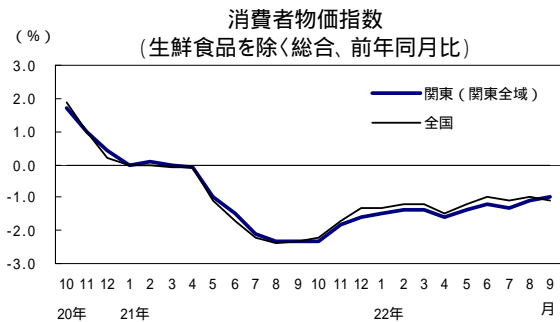
「全体感として、新規学卒者の採用枠が増えているわけではないが、グローバル人材の確保に向けてメーカーをはじめ、金融や大手家電量販店、サービス業の一部で外国人留学生、留学経験日本人学生への需要が強くなっている（求人情報誌製作会社）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額が大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

企業倒産

	（件、億円、％）				
	21年10-12月	22年1-3月	4-6月	7-9月	22年10月
倒産件数	1,040	1,161	1,118	1,038	361
（前年比）	14.2	12.1	10.5	17.8	2.2
負債総額	2,945	28,258	4,567	13,478	1,594
（前年比）	76.1	49.2	30.3	245.3	61.1



景気ウォッチャー調査（10月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・自動車部品メーカーから20%のコストダウン要請があり、受け入れられなければ海外へ持っていくと強く言われている（精密機械器具製造業）

<先行き>

・冬物需要期に入り、ファストファッションブームに飽き気味の客が戻ってきてつつある。歳暮商戦、クリスマス需要を早めにとらえていけば実りは多そうである（百貨店）

